

第三節 実業学校

本節では、昭和二〇年（一九四五）八月から新制高等学校が発足する二三年四月までの実業学校について、学校種類別にこれまで判明した事実を中心に述べる。

一 工業学校

終戦時の工業学校

岐阜県には、昭和二〇年（一九四五）八月には八つの公立工業学校と一つの私立工業学校が存在していた。それらは、第一工業学校（羽島郡笠松町）、第二工業学校（大垣市）、多治見工業学校（多治見市）、高山航空工業学校（高山市）、中津工業学校（恵那郡中津町）、岐阜市立第一工業学校、岐阜市立第二工業学校、大垣市立大垣工業学校と私立関工業学校（武儀郡関町）である。

第一工業学校と第二工業学校は大正一五年（一九二六）に設置され、比較的規模の大きい工業学校であった。多治見工業学校は、明治三三年（一九〇〇）に設置された工業学校で、これらの三つの学校は終戦時には工業教育としての一定の蓄積をもっていた。

市立第一工業学校と私立関工業学校は昭和一八年に、高山航空工業学校、中津工業学校、岐阜市立第二工業学校、大垣工業学校は一九年に設立された学校であった。岐阜市立第二工業学校は、岐阜市立岐阜商業学校から転換したもので、二一年度末に廃止され、商業学校に再転換した。昭和一八年度から二一年度にかけての工業学校の学科ごとの定員と、

二二年の『岐阜県統計書』で確認される生徒数を図表3-15に示す。

図表3-15に示されているように、二一年四月から「終戦二伴ヒ学科ノ整理」によつて学校の名称が一部変更され、航空機科（高山工業学校と岐阜市立第二工業学校）が廃止され、一九年度に募集停止された学科（紡織科、土木科、色染科など）が復活されることになった。

工業学校の転換

高山航空工業学校は、昭和一九年四月に「軍需生産、特ニ航空機ノ飛躍的増産ヲ図ルニアルハ言フ俟タザルトコロ、特ニ最近ラヂオケーターノ出現等ニ依リ木製航空機増産ノ要益々多キヲ加ヘタル折柄、幸ヒ本県飛駄^{トマ}地方ニハ無限ノ撫林ヲ有スルヲ以テ、飛駄独特ノ木工芸技術ヲ活用シ、最近軍需省ノ指導ヲ得、高山市及付近所在木工会社、機械会社ヲ一丸トシ、木製航空機製作会社ヲ創設シ国策ニ協力シ、大東亜戦完勝ノ一途ニ邁進セントスル折柄、之ガ技術者養成ノ為」に設立された（史近五・二三四）。終戦後の二〇年一月九日に高山工業学校に名称変更され、それまでの航空機科と機械科にかわつて木材工芸科と建築科が新たに設置された。木材工芸科「初修四年ノ課程」と同「高修三年ノ課程」の教科課程表を参考までに図表3-16に掲げておく（岐阜県公報「第一九五五号、昭和二一年一月九日」）。

図表3-16を見る限り、学科の名称は変更されたものの、教科課程についてはこの時期は戦前のものとそれほど大差のないように思われる。

大垣市立大垣工業学校は、昭和一九年四月に電気通信技術者の養成を主要な目標として設立された学校で、当初は男子部四年制、電気通信科、一学年二学級（定員一〇〇名）であった。二〇年四月からは男子部の定員が一学級五〇名増加し、さらに女子部二年制、電気通信科、一学年一学級（定員五〇名）も置かれた。ここで女子部が二年制となっているが、入学資

図表 3 - 5 終戦前後の工業学校

・昭和18年度～21年度の（ ）内は1学年の定員

	昭和18年度	昭和19年度	昭和20年度	昭和21年度	昭和22年『岐阜県統計書』
第一工業学校				第一工業学校	
〈本科〉 紡織科	4年 4学級 100名(25)	募集停止(1年は機械へ)		5年 5学級 250名(50)	紡織 61人(4・5年生)
土木科	4年 4学級 100名(25)	募集停止(中津工業に移転)		5年 5学級 150名(30)	土木 29人(5年生)
工業化学科	4年 4学級 140名(35)	4年 4学級 140名(35)	4年 4学級 140名(35)	5年 5学級 250名(50)	工化 91人(4・5年生)
色染科	4年 4学級 100名(25)	募集停止(1年は冶金へ)		5年 5学級 100名(20)	
機械科(初修)	4年 8学級 360名(90)	4年 12学級 600名(150)	4年 12学級 600名(150)	5年 5学級 250名(50)	機械 271人(4・5年生)
機械科(高修)	3年 3学級 120名(40)	3年 3学級 150名(50)	3年 3学級 150名(50)	3年 3学級 150名(50)	機械 108人(2・3年生)
	冶金科	4年 4学級 120名(30)	(廃止)		
	金属工業科	4年 4学級 140名(35)	4年 4学級 140名(35)	(廃止)	
		電気科	4年 4学級 120名(30)	5年 5学級 250名(50)	電気 48人(4・5年生)
〈第二本科〉 機械科	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	2年 4学級 160名(80)	2年 2学級 80名(40)	機械 45人(2年生)
工業化学科	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	工化 37人(2年生)
土木科	2年 4学級 160名(80)	2年 4学級 160名(80)	(廃止)		
		電気科	2年 2学級 80名(40)	(廃止)	
〈第二種専攻科〉 機械科	1年 1学級 40名(40)	(廃止)			
第二工業学校				第二工業学校	
〈本科〉 機械科(初修)	4年 8学級 360名(90)	4年 12学級 600名(150)	4年 12学級 600名(150)	5年 5学級 250名(50)	機械 252人(4・5年生)
機械科(高修)	3年 3学級 120名(40)	3年 3学級 120名(40)	3年 3学級 120名(40)	3年 3学級 120名(40)	機械 100人(2・3年生)
電気科	4年 4学級 160名(40)	4年 8学級 280名(70)	4年 8学級 280名(70)	5年 10学級 400名(80)	電気 101人(4・5年生)
建築科	4年 4学級 120名(30)	4年 4学級 120名(30)	4年 4学級 120名(30)	5年 10学級 400名(80)	建築 44人(4・5年生)
色染科	4年 4学級 80名(20)	募集停止(1年は電気へ)		5年 5学級 150名(30)	
工業化学科	4年 4学級 80名(20)	4年 4学級 80名(20)	4年 4学級 80名(20)	5年 5学級 150名(30)	工化 52人(4・5年生)
〈第二本科〉 機械科	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	(廃止)	
電気科	2年 4学級 160名(80)	2年 4学級 160名(80)	2年 4学級 160名(80)	2年 2学級 80名(40)	電気 106人(1・2年生)
建築科	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	2年 2学級 80名(40)	建築 97人(1・2年生)
〈第二種専攻科〉 電気科	1年 1学級 40名(40)	(廃止)			

	昭和18年度	昭和19年度	昭和20年度	昭和21年度	昭和22年『岐阜県統計書』	
多治見工業学校	窯業科(第一種) 窯業科(第二種)	4年4学級 160名(40) 3年3学級 90名(30)	4年4学級 200名(50) 3年3学級 120名(40)	4年4学級 200名(50) 3年3学級 120名(40)	多治見工業学校 5年10学級 500名(100) (廃止)	窯業 110人(4・5年生) 窯業 43人(3年生)
	航空機科 機械科	高山航空工業学校(19年～) 3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)		4年4学級 200名(50) 4年4学級 200名(50)	高山工業学校に改称 木材工芸科 5年5学級 250名(50) 建築科 5年5学級 250名(50)	木工 29人(3年生) 建築 29人(3年生)
岐阜市工業学校(18年～)	土木科 建築科	4年4学級 200名(50) 4年4学級 200名(50)	4年4学級 200名(50) 4年4学級 200名(50)	5年5学級 250名(50) 5年5学級 250名(50)	岐阜市第一工業学校 土木 49人(4年生) 建築 55人(4年生)	土木 49人(4年生) 建築 55人(4年生)
	本科・機械科	4年8学級 400名(100)	4年8学級 400名(100)	4年8学級 400名(100)	岐阜市第一工業学校 4年8学級 400名(100) 4年4学級 200名(50)	機械 269人(4・5年生) 土木 49人(4年生)
	第二本科・機械科	4年4学級 200名(50)	4年4学級 200名(50)	4年4学級 200名(50)	<不明> <不明>	建築 46人(4年生) 機械 35人(4年生) 建築 89人(2・3年生)
	航空機科 土木科 建築科	岐阜市第二工業学校(19年～) 4年12学級 600名(150) 4年4学級 200名(50) 4年4学級 200名(50)		4年12学級 600名(150) 4年4学級 200名(50) 4年4学級 200名(50)	岐阜市第二工業学校 (廃止) 4年8学級 400名(100)募集は停止 4年12学級 600名(150)募集は停止	(廃校)
	電気・通信科	大垣市立大垣工業学校(19年～) 4年8学級 400名(100)	4年12学級 600名(150)	4年12学級 600名(150)	大垣市立大垣工業学校 4年4学級 160名(40) 4年4学級 160名(40)	電通 90人(4年生)
	女子部・電気・通信科	2年2学級 100名(50)	2年2学級 100名(50)	4年4学級 160名(40)	(廃止、市立高女設立～)	
私立関工業学校(18年～)	4年8学級 400名(100)	4年8学級 400名(100)	4年8学級 400名(100)	私立関工業学校 5年	私立関工業学校 機械 202人(4・5年生)	

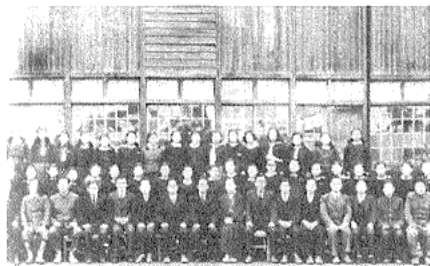
図表316 木材工芸科の教科課程表
木材工芸科（初修四年ノ課程）

毎週授業時数	修 錬	芸 能 科	体 鍊 科		理 数 科		実 業 科						国 民 科			教 科 目 時 数 課 程		学 年				
			体 操	教 武 道	生 物 物	数 象 学	外 国 語	工 場 管 理	電 氣	機 械	建 築	意 匠	木 工 材 料	木 材 工 作	実 習 図 案 製 図	工 芸 概 説	地 理		歴 史	国 語	修 身	
三九	三	三	三	三	一	四	四	二						一	六	一	一	二	四	一	第一学年	
		図 書 道																			課程	第一学年
四〇	三	二	三	三	二	三	五	二						二	一	七	一	一	四	一	第二学年	
																					課程	第二学年
四〇	三		二	三	一	四	三	三	一	二	二	二	二	九			一	一	二	二	第三学年	
																					課程	第三学年
四〇	三		二	三	一	三	三	一	二	一				二	二	一	一	二	二		第四学年	
																					課程	第四学年

木材工芸科（高修三年ノ課程）

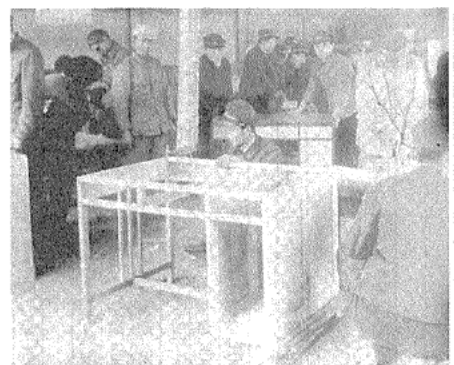
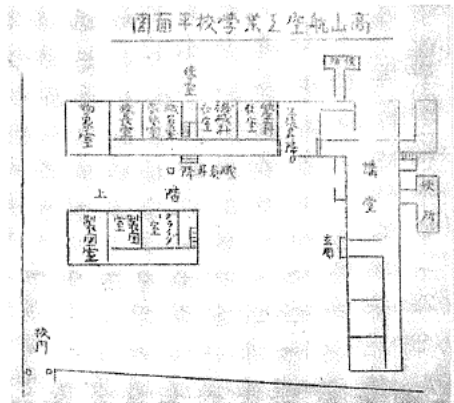
毎週授業時数	修 錬	芸 能 科	体 鍊 科		理 数 科		実 業 科						国 民 科			教 科 目 時 数 課 程		学 年					
			体 操	教 武 道	生 物 物	数 象 学	外 国 語	工 場 管 理	電 氣	機 械	建 築	意 匠	木 工 材 料	木 材 工 作	実 習 製 図 製 図 案	工 芸 概 説	地 理		歴 史	国 語	修 身		
四一	三	二	二	三	一	四	三	三						二	二	八	一	一	二	三	一	第一学年	
		図 書 道																				課程	第一学年
四一	三		二	三	一	三	四	三						二	二	二	二	八	一	一	二	二	第二学年
																						課程	第二学年
四一	三		二	三	一	四	三	一	二	二				二	二	一	一			二	二	第三学年	
																						課程	第三学年

「大垣市大垣工業学校学科、学級数及生徒定員変更並ニ女子部廃止ノ件」によれば、女子部を廃止して、別に修業年限二年の高等女学校が設置された（史現一・一〇三）。なお、同校は二三年四月に大垣市立工業高校となったが、同年八月の高校再編成によって県立大垣工業高校（旧第二工業学校）に統合されることになった。



大垣市立大垣工業学校
（大垣工業高等学校
『わかもり 半世紀の歩み』より）

格が異なることがその主な理由である。女子部は「国民学校高等科修了者」となっているのに対して、男子部は「国民学校初等科修了者、実業学校規程第三十九条該当者」となっている（史近五・三三九）。終戦後の二二年四月からは男子部の電気通信科が一学級に減らされ、紡織科と土木科それぞれ一学級ずつに転換された。同年二月に申請された



上：高山航空工業学校平面図
下：高山工業学校木材工芸科
（高山工業高等学校
『50周年記念誌 はくよう』より）

岐阜市立第二工業学校は、前述したように岐阜市立岐阜商業学校から転換した学校であったが、終戦後の昭和二〇年一月一日から「実質上の商業学校」への再転換となり、「学級の全面的転換は三学年のみで、一、二学年は各五学級中三学級が商業へ転換し、残る二学級は生徒の希望により工業学校生徒として教育を継続することとなり、当初計画された市立第一工業への併合は学級増加の困難なる関係上これを変更されるに至つた」（岐阜合同新聞）昭和二〇年一月一日。

以上にみてきたように、終戦直前に創設あるいは転換された工業学校の一部は廃止され、他の部分は学科名称等を変更して、さらに発展していくことになる。農業学校と比べて、規模が大きく生徒定員も多く学校再編成に際しても、後にみるように工業高校として単独校で存在することが多かった。

二 農業学校

終戦時の農業学校

岐阜県には、昭和二〇年（一九四五）八月において一〇の公立農業学校と一つの私立農業学校が存在していた。それらは、岐阜農林学校（本巣郡北方町）、安八農学校（大垣市）、加茂農林学校（加茂郡古井町）、斐太実業学校（高山市）、郡上農林学校（郡上郡明方村）、可児実業学校（可児郡伏見村）、中津農林学校（恵那郡中津町）、揖斐実業学校（揖斐郡揖斐町）、土岐実業学校（土岐郡土岐町）、益田農林学校（益田郡萩原町）と私立即真実業学校（稲葉郡那加町）である。

昭和一八年度から二一年度にかけての農業学校の学科ごとの定員と、二二年の『岐阜県統計書』で確認される生徒数を図表3-17に示す。

図表 3 - 7 終戦前後の農業学校

・昭和18年度～21年度の（ ）内は1学年の定員

	昭和18年度	昭和19年度	昭和20年度	昭和21年度	昭和22年「岐阜県統計書」
岐阜農林学校	農業科 3年6学級 300名(100) 林業科 3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)	岐阜農林学校 3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)	農業 115人 林業 103人 農業土木 110人
安八農学校	農業科 4年8学級 400名(100)	4年8学級 400名(100)	4年8学級 400名(100)	安八農学校に改称 4年8学級 400名(100)	農業 210人
加茂農林学校	男子部・農業科 3年3学級 150名(50) 〃・拓殖科 3年3学級 150名(50) 女子部・農業科 4年8学級 400名(100)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50) 4年8学級 400名(100)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50) 4年8学級 400名(100)	加茂農林学校 3年6学級 300名(100) (廃止)	農林 229人 (廃止)
揖斐実業学校	男子部・農業科 3年6学級 300名(100) 女子部・農業科 2年2学級 100名(50)	3年6学級 300名(100) 2年2学級 100名(50)	3年6学級 300名(100) 2年2学級 100名(50)	揖斐農林学校に改称 3年6学級 300名(100) 2年2学級 100名(50)	農業 183人 農業 62人
斐太実業学校	第一種・農業科 3年3学級 150名(50) 〃・林業科 3年3学級 150名(50) 第二種・農業科 3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)	斐太農林学校に改称 3年6学級 300名(100) 3年3学級 150名(50) (廃止)	農業 156人 林業 102人 (廃止)
可児実業学校	男子部・農業科 3年3学級 150名(50) 女子部・農業科 4年4学級 200名(50)	3年3学級 150名(50) 4年4学級 200名(50)	3年3学級 150名(50) 4年4学級 200名(50)	可児実業学校に改称 3年3学級 150名(50) 5年10学級 500名(100)	農業 111人 農業 57人
郡上農林学校	農業科 3年3学級 150名(50) 拓殖科 3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50) 3年3学級 150名(50)	郡上農林学校 3年3学級 150名(50) (廃止)	農業 103人 林業 102人
益田農林学校	男子部・農業科 3年6学級 300名(100) 女子部・農業科 2年2学級 80名(40)	3年6学級 300名(100) 2年2学級 80名(40)	3年6学級 300名(100) 2年2学級 80名(40)	益田農林学校 3年6学級 300名(100) 2年4学級 160名(80)	農業 194人 農業 105人
土岐実業学校	男子部・農業科 3年3学級 150名(50) 女子部・農業科 2年2学級 100名(50)	3年6学級 300名(100) 2年2学級 100名(50)	3年6学級 300名(100) 2年2学級 100名(50)	土岐農林学校に改称 3年6学級 300名(100) 2年4学級 200名(100)	農業 209人 農業 109人
中津農林学校	農業科 3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50)	3年3学級 150名(50)	中津農林学校 3年6学級 300名(100)	農林 166人
私立即真実業学校 (16年開校)	農業科 <不明>			男子部・農業科 女子部・農業科 私立即真実業学校	農業 60人 農業 12人 農業 85+14人

図表3-17に示されているように、二一年四月から公立学校の名称が農林学校あるいは農業学校に変更され、拓殖科が廃止された(史現一・九八、一〇〇)。

農業学校の拡充

図表3-17を見ると、女子部の定員について、可見農業、益田農林、土岐農林などで大幅に増えていることが分かる。昭和二一年七月二〇日付けの「岐阜県揖斐農林学校女子部学級増加趣意書」は、「女子部の入学志望者は逐年増加の一途を辿り昨今に於ては定員五十名に対し百三十名の多きに達し加ふるに戦災並びに物価暴騰、物質不足、食料困難の世相に伴ひて遠く大垣高等女学校又は本巢高等女学校へ入学せしむる能はざるやうになつたため一層本校の志望者を激増するの趨勢を示すと共に女子参政権を始め男女同権の民主主義の風潮は弥が上に女子の向学心をそそり女子部の学級増加の必要は最早や一日忽がせにする能はざる焦眉の急を要すること、なりました」と当時の状況を具体的に語っている(史現一・二〇五附)。女子部の定員の増加の背景には、女子の中等教育への進学希望者の増大があると考えられる。

二一年四月には岐阜市立農業学校が新たに設立された(史現一・一〇四)。さらに、二二年度には加茂農林学校に畜産科が増設された(史現一・一〇五)。このときの「畜産科」を増設する理由書には「県内農学校ニ畜産科ヲ増設シ、広ク県下ノ畜産ト直結セシメ、技術者ノ養成ハ勿論優良家畜ノ普及発達ノ推進力ヲラシムルニ在ル」とあり、県の経済において農業が占める比重が大きい本県の農業の発展への期待と結び付けて畜産科が増設されたことが読みとれる。

三 商業学校

終戦時の商業学校

岐阜県には、昭和二〇年(一九四五)八月には二つの公立女子商業学校と一つの私立女子商業学校が存在していた。それらは、大垣女子商業学校(大垣市)と岐阜市立女子商業学校、私立岐阜済美女子商業学校(岐阜市)である。

昭和一八年度までは、大垣商業学校、中津商業学校、岐阜市立岐阜商業学校が存在していたが、一九年度より、これらの学校は工業学校に転換していた。終戦後に再び商業学校に転換し、二一年度から生徒募集が再開された。

昭和一八年度から二二年度にかけての商業学校の定員と、二二年の『岐阜県統計書』で確認される生徒数を図表3-18に示す。

岐阜市立女子商業学校の状況

岐阜市立女子商業学校については、「岐阜合同新聞」(昭和二〇年八月二九日)に終戦直後の状況についての記述が掲載されているので、それを以下に紹介しておく。

戦災で校舎を焼失した岐阜市立女子商業は二十六日から金華国民校の一部校舎を借り受けて授業を開始したが、市数学課では何等かの指示が中央から県当局を通じて明らかにされるまでは、女子生徒の教育方針を道義の涵養、家政、農耕に重点を置き、飽くまでも休校せず戦後の文教邁進の決意を示して居り、女子商業としても増産挺身以外は戦前の特色を生かして本来の商業学校としての真面目をとりもどすことになつてゐる。

そもそも同校は昭和一〇年四月に創立され、尋常小学校修了を入学資

図表3-8 終戦前後の商業学校

・昭和18年度～21年度の（ ）内は1学年の定員

	昭和18年度	昭和19年度	昭和20年度	昭和21年度	昭和22年『岐阜県統計書』
大垣商業学校	4年16学級 800名(200)	募集停止	募集停止	募集再開 2学級 100名(100)	200人(5年生)
中津商業学校	4年12学級 600名(150)	募集停止	募集再開	募集再開	147人(5年生)
岐阜市立岐阜商業学校					
第一本科	4年20学級 1000名(250)	募集停止	募集再開 5学級 250名(250)	募集再開 1学級 50名(50)	460人(4・5年生)
第二本科	4年4学級 200名(50)	募集停止	募集再開	募集再開	44人(2年生)
岐阜市立女子商業学校					
第一本科	4年16学級 800名(200)	4年16学級 800名(200)	4年16学級 800名(200)	4年16学級 800名(200)	209人(4年生)
第二本科	2年4学級 200名(100)	2年4学級 200名(100)	2年4学級 200名(100)	2年4学級 200名(100)	113人(2年生)
大垣市立女子商業学校		大垣女子商業学校(県立)			
第一本科	3年12学級 600名(200)	4年16学級 800名(200)	4年16学級 800名(200)	4年12学級 600名(150)	217人(4年生)
		岐阜清美女子商業学校(19年～)			(廃止)

格とする三年制の商業学校であった。一七年度には、「岐阜市内ニ於ケル官衙工場会社等ノ婦人事務員採用ハ激増ノ一途ニアリ」、同校に対する「求人申込ハ圧倒的ニシテ、例年就職希望者ノ倍以上ニ達シ、本年ノ如キモ就職希望者百七十名ニ対シ求人申込ハ岐阜市内ノミニテモ三百人ヲ突破セリトイフ」状況にあり、そうした状況をふまえて第二本科が一八年度四月に設置された。この第二本科は、国民学校高等科二年修了を入学資格とする修業年限二年の夜間課程であった。第二本科が設置された背景には、岐阜市における求人状況が示す社会的需要と、前述した農業学校女子部の定員増加の背景にあった女子の中等教育への進学希望者の増大という状況があったと考えられる。この第二本科は、女子にとって中等教育機関の一つの代替機関の役割を果たしたと考えられる。そのこ

とを示す史料を以下に掲げておく(国立公文書館所蔵「公立実業学校第二本科設置ノ件認可申請」昭和一八年二月、「商業学校学則 岐阜県第二冊」所収)。

現在岐阜市ニハ女子中等教育機関トシテ、女子師範ヲ始メ県立高女ニ、市立高女一、市立女子商業一、私立高女四ノ多キヲ数フルモ、女師ヲ除ク他ハ悉ク初等科修了ヲ以テ入学資格トシ、高二修了者ノ進学スベキ途殆ドナシ、従ツテ中流以上ノ家庭ノ子女ハ多ク初等科修了ト共ニ中等学校ニ進ムヲ常トスルモ、豊カナラサル家庭ノ子女ハ如何ニ天分ニ恵マレ進学希望ニ燃ユルトモ、僅カニ高等科ニ進ミ卒業ト共ニ多クハ職場ニ進ムノ外ナキナリ。反之、男子ニトリテハ幸ニモ県立夜間中学、夜間工業、市立夜間商業アリテ、豊カナラサル家庭ノ男子ニ対シ進学ノ途充分ニ開ケツ、アルハ洵ニ喜ブベキ事ナリ。(略) 現在ノ岐阜市ニ於ケル喫緊



岐阜市立女子商業学校

上：銀行簿記

(『岐商創立八〇周年記念誌 凜心80』より)

下：新校舎(昭和21年5月完成)

(『岐商創立九〇周年記念誌 凜心90』より)

ノ要務ノ一ハ、家庭豊カナラズトモ天分ニ恵マレ進学希望ニ燃エ立ツ子女ニ対シ中等教育ヲ授クルノ途ヲ講ズベキ点ニアリ。

四 その他の実業学校

昭和一八年度までは甲種の職業学校として存在した学校は、「その他の実業学校」として『岐阜県統計書』において分類されてきた。これに相当する学校としては、昭和二〇年(一九四五)八月段階では、多治見市立多治見高等実践女学校、恵那高等実科女学校(恵那郡長島町)、岩村高等実科女学校(恵那郡岩村町)、岐阜女子高等技芸学校(岐阜市)、多治見高等家政女学校(多治見市)、川西岐阜実業女学校(岐阜市)、郡上高等実科女

学校(郡上郡八幡町)の七つの学校を挙げることができる(図表3-19)。

これらの学校の中で、岐阜女子高等技芸学校と川西岐阜実業女学校は二一年度までに廃止された。その他の学校は、その後、新制高校に統合ないし昇格した。

ここでは、川西岐阜実業女学校について、廃止になった経緯について述べておく。同校は、日本毛織株式会社岐阜工場内にあった日毛岐阜女学校(昭和一〇年設立、史近五・二九八)が、昭和一八年に工場が「川西機械製作所ニ譲受ケ」られたことによって名称変更されたものであった。しかし、二〇年七月九日の戦災により工場が同年九月一五日をもって閉鎖となるに至って、「生徒三百名ハ八月一五日徴用解除ニ伴ナヒ退学帰郷セシメ教員二十名ハ夫々転職或ハ帰郷セリ」という状態で、廃校となったのである(国立公文書館所蔵「私立実業学校廃校二関スル件」昭和二二年二月、「職業学校設置廃止認可 岐阜県第三冊」所収)。

五 入学者数の変化

最後に実業学校への入学者数の変化について、他の中等学校との関係でみておく。図表3-10に、昭和五年度から二一年度までの本県における中等学校入学者数の推移を示した。

図表3-10から、昭和一〇年代後半から二一年度にかけて中等学校入学者数が急速に伸びていることが分かるが、中でも中学校や高等女学校への進学者数の伸びよりも実業学校への進学者数の伸びの方が大きいことが注目される。

図表 3 - 9 終戦前後のその他の実業学校

昭和 18 年度	昭和 19 年度	昭和 20 年度	昭和 21 年度	昭和 22 年「岐阜県統計書」
市立多治見高等実践女学校	市立多治見高等実践女学校	市立多治見高等実践女学校	市立多治見高等実践女学校	(高等女学校に)
組合立恵那高等実科女学校	恵那高等実科女学校	恵那高等実科女学校	恵那高等実科女学校	恵那高等実科女学校 181 + 63人
岩村高等実科女学校	岩村高等実科女学校	岩村高等実科女学校	岩村高等実科女学校	岩村高等実科女学校 177 + 43人
岐阜女子高等技芸学校	岐阜女子高等技芸学校	岐阜女子高等技芸学校	岐阜女子高等技芸学校	(21年度で廃止)
多治見高等家政女学校	多治見高等家政女学校	多治見高等家政女学校	多治見高等家政女学校	多治見高等家政女学校 125 + 22人
川西岐阜実業女学校	川西岐阜実業女学校	川西岐阜実業女学校	(工場閉鎖で21年2月廃校)	
郡上高等実科女学校	郡上高等実科女学校	郡上高等実科女学校	郡上高等実科女学校	(高等女学校に)

図表 3 - 10 中等学校入学者数の推移 (昭和 5 年度～21年度)

(【文部省年報】より)

昭和 5 年度	中学校		高等女学校		実科女学校		工業学校		農業学校		商業学校		職業学校			
	本科	実科	本科	実科	実科	甲・本科	甲・2部	乙・本科	甲・本科	甲・本科	乙・本科	乙・本科	甲・本科	乙・本科		
1029	1305	36	71	213	24	24	24	24	282	121	237	35	411	-	157	111
854	1181	26	53	204	32	32	32	252	103	228	43	395	-	143	85	
908	1295	33	50	229	29	29	29	258	94	217	36	472	-	129	56	
1008	1377	27	77	252	44	44	44	367	99	215	46	496	-	129	64	
1021	1500	30	54	243	48	48	48	296	132	234	49	487	-	170	49	
1002	1491	48	43	235	49	49	49	346	103	230	88	492	-	242	20	
1010	1516	37	70	309	48	48	48	307	126	225	91	489	-	200	47	
985	1492	35	64	323	50	50	50	313	124	235	110	471	-	290	54	
976	1574	46	86	332	80	80	80	337	133	251	89	471	-	364	4	
979	1547	42	97	311	80	80	80	329	141	257	115	523	-	423	-	
1338	1869	44	132	347	49	49	49	725	154	180	112	620	-	548	-	
1762	2233	274	202	429	-	-	402	845	280	56	-	632	-	569	-	
1802	2772	279	127	454	35	35	340	911	279	57	-	655	(女) 196	203	541	
1971	2978	-	-	1231	-	-	-	1015	335	-	-	697	549	-	741	-
2037	3297	-	-	1949	-	-	-	1085	351	-	-	-	677	-	721	-
2378	3583	-	-	2025	-	-	-	1184	471	-	-	-	767	-	723	-
2316	3569	-	-	1650	-	-	-	1280	511	-	-	456	685	-	725	-

※以降 その他の実業学校